

令和7年 市職員への年頭訓示

職員の皆さん 新年あけましておめでとうございます。

皆さんにおかれでは、新しい年を健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年も皆さんと共に、木津川市の発展に向けて取り組んでまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、元日に能登半島地震が発生し、水道をはじめ職員の皆さんにも応援に行っていただきました。改めて感謝を申し上げます。

そして、8月には日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生し、初めて「南海トラフ地震臨時情報」が発表されました。また、能登半島では、地震被害からの復旧のさなかに記録的な豪雨が起きるなど、全国では各地で大雨や台風による災害も発生いたしました。

幸いに本市では大きな被害は発生しませんでしたが、改めて、職員の皆さんには、平時から市民の生命・財産を守ることを第一に、業務に当たって頂きますようお願ひ申し上げます。

また、4月からは、第2次木津川市総合計画後期基本計画がスタートしました。まちの将来像を「子どもの笑顔が未来に続く 幸せ実感都市 木津川」とし、先人のご尽力に敬意を表し、引き続き、自然、文化、人、産業などの資源を活かし、まちづくりを推進してまいります。

私も、若者会議やタウンミーティングを通じて、市民の皆様や色々な方の意見を直接に伺うとともに、将来に向けて、学生からのまちづくりの提案の

事業化や、「Future Lab. Kizugawa」による 人材育成にも取り組んでまいります。

さらに、10月からは、南加茂台地域における地域おこし協力隊2名に就任いただきました。本年からいよいよ本格的に活動していただき、地域の活性化につなげてまいりたいと考えております。

そのような中、昨年末に石破内閣の経済対策が予算化されました。石破総理は「地方創生2.0」を起動し、地方創生交付金の倍増など、地方創生の一層の強化を表明されました。

本市も人口の転換期を迎える、国の財源も活用しながら「子どもや若者が将来に向けて希望を持てるまちづくり」、「すべての方が住み慣れた地域で暮らせるまちづくり」に向け、自ら考え方行動を起こしていくことが必要であり、主体的な取組を進めていかなければなりません。

さて、本年は私も就任して3年目の年であり、任期の中間点を迎えます。また、4月13日には、いよいよ「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、大阪・関西万博が開幕いたします。この機会に合わせて、各地では多くのイベントなどが計画されており、けいはんな学研都市では、このエリアを舞台に、科学技術、歴史・文化、アートのイベントとして「けいはんな万博2025」が開催されます。

本市では、「木津川アート2025」をけいはんな万博の事業として開催する予定としておりますが、この他にも様々な取組を通じて、大阪・関西万博に来場された多くの方々に木津川市を知り、そして来ていただけるような取組を進めてまいりたいと考えておりますので、是非とも職員の皆さんのご協力をお願いいたします。

そして、今まさに来年度の予算編成に取り組んでいただいております。予算編成方針でお示ししているように、限られた財源を「力強さ」と「攻めの姿勢」をもって編成していきたいと考えております。

そのためには、職員の一人ひとりが、現下の社会経済情勢をしっかりと見極めつつ、軌道に乗っている事業はさらに加速し、課題が生じている事業は柔軟に見直すことが必要と考えております。特に、幹部職員の皆さんには、率先的かつ意欲的な取組を期待しております。

また、物価高騰対策などについても、早急に取り組んでまいりたいと考えておりますのでよろしくお願ひいたします。

改めまして、今年の干支は、巳（み）、へびであります。

へびは、神様の使いとして大切にされてきた動物で、脱皮を繰り返すことから、不老不死のシンボルともされており、「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく年」と言われております。本市も多方面との連携を進めながら、未来へと続くまちを目指してまいりますので、よろしくお願ひいたします。

最後に、これらのまちづくりを力強く進めていくには職員の皆さんのが必要であり、そのためには皆さんの健康が第一であります。心と体の健康には十分留意していただき、この一年が皆様にとって幸多き年となりますこと、そして本市のさらなる発展を祈念いたしまして、年頭のあいさつとさせていただきます。

令和7年1月6日

木津川市長 谷口 雄一